

学位論文要約

「水中安全教育」に関する認識と態度についての実態調査  
—中国浙江省の大学生と大学の水泳教員を対象に—

周 鵬程

広島大学大学院人間社会科学研究科  
教育科学専攻 教師教育デザイン学プログラム  
健康スポーツ教育学領域

## 【 論文題目 】

「水中安全教育」に関する認識と態度についての実態調査  
—中国浙江省の大学生と大学の水泳教員を対象に—

## 【 論文目次 】

### 序章 本論文の背景と目的および方法

#### 第1節 研究の背景と問題の所在

第1項 中国の水難事故の実態と「水中安全教育」の必要性

第2項 本論文における「水中安全教育」の定義

第3項 「水中安全教育」の現状

第4項 問題の所在

#### 第2節 本論文の目的

#### 第3節 研究の方法と論文の構成

第1項 調査方法と調査内容

第2項 論文の構成

注 釈

引用文献

### 第1章 中国浙江省の大学生を対象とした「水中安全教育」に関する認識と態度についての実態調査

#### 第1節 研究の背景と問題の所在

第1項 海外の成果と課題

第2項 問題の所在

#### 第2節 本章の目的

#### 第3節 研究の方法

第1項 調査対象

第2項 調査内容と調査方法

第3項 統計処理

第4項 倫理的配慮

#### 第4節 結果

第1項 「水中安全教育」に関する認識と態度についての因子分析結果

第2項 信頼性および妥当性の検証

第3項 「水中安全教育」に関する認識

第4項 「水中安全教育」に関する態度

#### 第5節 考察

第1項 「水中安全教育」に関する認識の考察

第2項 「水中安全教育」に関する態度の考察

第6節 本章のまとめ

注 釈

引用文献

## 第2章 中国浙江省の大学の水泳教員を対象とした「水中安全教育」に関する認識と態度についての実態調査

第1節 研究の背景と問題の所在

第2節 本章の目的

第3節 研究の方法

第1項 調査対象

第2項 調査内容と調査方法

第3項 統計処理

第4項 倫理的配慮

第4節 結果

第1項 属性

第2項 信頼性の検証

第3項 カテゴリーごとの水泳教員全体の平均値と標準偏差

第4項 性別比較

第5項 年代比較

第6項 教職経験年数比較

第5節 考察

第1項 「水中安全教育」に関する認識の考察

第2項 「水中安全教育」に関する態度の考察

第6節 本章のまとめ

注 釈

引用文献

## 第3章 中国浙江省の大学における「水中安全教育」の成果と課題

第1節 本章の目的

第2節 中国浙江省の大学生と大学の水泳教員を対象とした「水中安全教育」の認識に関する成果と課題

第3節 中国浙江省の大学生と大学の水泳教員を対象とした「水中安全教育」の態度に関する成果と課題

第4節 中国浙江省の大学における「水中安全教育」の実態から示された知見

第5節 浙江省の「水中安全教育」が中国全土に転用される際の課題  
引用文献

**終章 本論文のまとめ**

第1節 本論文の成果

第2節 今後の展望

引用文献

**謝辞**

## 【 論文要約 】

### 序章 本論文の背景と目的および方法

序章では、研究の背景及び問題の所在を整理したうえで、研究の目的、研究の方法、本論文の構成について論じた。

2012年に中国教育部は、溺水を防止するための安全教育の重要性を強調し、児童や生徒、大学生などが不意に水中に落ちてしまった際、自分の命を守ることができる方法を身につけさせることを提案した（中華人民共和国教育部、2012）。しかし、一部の大学において、「水中安全教育」は、実技などを実施しない知識伝達型の教育にとどまっていることが指摘されている（王、2012；張ら、2019；田・宋、2019）。また、中国において、「水中安全教育」は安全への呼びかけにとどまっている大学もある（徐ら、2015a）。以上のことから、一部の中国の大学において、「水中安全教育」の内容が不十分であるといえよう。

中国の大学における水泳教育は、日本の中学校・高等学校と同様に4泳法の学習を中心に行っているが、競泳の指導を優先する傾向が強く、救命のための知識と技能の指導まで行き届いていないことが指摘されている（党、2018；張、2018）。そして、大学の水泳教員<sup>注1)</sup>は、大学生は成人であることから、安全意識が高いと誤解し、授業中の安全問題を重要視していない場合も存在する（韓、2022）。また、于（2017）の調査によると、水泳教育の中で安全の確保を強く意識している水泳教員は僅か10%だったことが明らかとなっている。さらに、代・丁（2021）は、雲南省昆明市にある9つの大学を調査した結果、9つの大学を合わせても水泳を専門とする水泳教員が5人のみであることを明らかにしている。加えて、党（2020）によると、多くの大学では水泳が専門でない教員が水泳教育を担当していると報告されている。これにより、水泳教育の実施における安全管理が十分ではないという問題が指摘されている（党、2020）。これらの先行研究から、大学生が「水中安全教育」に関する知識と技能を習得できるような指導の充実および水泳教員の専門性の向上、そして水泳教員の「水中安全教育」に関する態度を改善させることが重要であると考えられる。

加えて、徐ら（2015b）は、広州市の大学生に対して、水泳や「水辺活動」<sup>注2)</sup>に関する安全手引きの共有および「水中安全教育」に関する動画の視聴を通して、「水中安全教育」を行ったことを報告している。その結果、大学生の多くが「水中安全教育」の実施に対して肯定的に捉えていることが明らかにされている（徐ら、2015b）。しかし、「監視員が不在の時に泳いでいる」、「悪天候で泳ぐ人が時々いる」といった水難事故につながるような行動をしている大学生も存在していることが指摘されている（徐ら、2015a）。中国の大学生の中には、安全が十分でないと分かっているにもかかわらず、泳ぎたいという感情が優先され泳ぐ行動をとってしまう現状がうかがえる。そして、中国の大学生は、水泳教育を受ける際に、安全配慮を重視していないことがよく見受けられると指摘されている（李、2019；魯ら、2017）。つまり、「水中安全教育」の質を高めることによって、大学生の水難事故につながる行動を減らし、大学生に水中安全を重視させる必要がある。茅（2008）は浙江省の大学生を対象に、「水中安全教育」に関する認識の調査を行った結果、水難救助の認識に関して「理解している」と回答した学生が約5%、「基本的には理解している」と回答した学生が約10%、「あまり理解できていない」と回答した学生が約15%、「理解できていない」と回答した学生は約70%であったことを報告している。また、水難救助以外に、「水中安全教

育」に関する知識の理解などに関する詳細な調査は行われていない（茅，2008）。

さらに，張（2017a）は，大学生および大学の水泳教員の「水中安全教育」に関する知識，技能，そして態度における3要素（感情・認知・行動）の中にある認知と行動の実態を理解することによって，水難事故の低減につながると述べている。加えて，馮（2017）は態度における3要素が一致しない場合，感情が主な態度の決定要因となることを明らかにしている。よって，「水中安全教育」に関する感情的な要素も含めて，検討することが必要であろう。

今野ら（2003）によれば，認識は知識であるとされているが，体育における認識は「わかる」として考えられる（玉腰，2017）。そして，中嶋・森（2016）は，体育固有の「わかる」は「身体でわかる」ことであり，「身体でわかる」ことは「できる（技能）」に当たると述べている。以上のことから，本研究で着目している「知識」と「技能」を「認識」として設定した。

中国の中でも浙江省は，海や河川などに恵まれている省であり，浙江省の人々は「水辺活動」に関わる機会が多く（張，2017b），不慮の事故で水中へ落下する可能性が高い地域であることが推測される。そのため，浙江省は他の省よりも「水中安全教育」の必要性が高いといえよう。そして，水難事故を防止するための対策として，浙江省教育庁は他省に先駆けて，2003年に水泳を普及するための政策を公表している（浙江省教育庁，2003）。この政策は義務ではないが，浙江省のすべての児童・生徒・大学生に泳ぐことができる能力を身につけることを求めている。この政策が公表されてから，浙江省の高等学校入試で水泳の試験が設置されたため，スイミング・スクールに通う子どもや青年が大幅に増加したとの報告もあった（張，2017b）。また，浙江省は大学のプール施設が充実しており，浙江省の大学に勤めている水泳教員は学生時代から水泳教育に関する社会活動に積極的に参加しており，多様な方法で水泳教育を実施し，高度な専門知識と技能を有しているとされている（施，2021）。しかし，浙江省の大学における「水中安全教育」についての研究が不足しているにも関わらず，中国政府は，水泳の先進省である浙江省の経験を他の地域への転用を試みている（呉・潘，2015；李ら，2019）。したがって，浙江省の大学を事例として，「水中安全教育」に関する認識と態度の実態を調査する必要があると考えられる。

以上のことから，本論文では，中国浙江省を事例に，浙江省の大学生および大学の水泳教員を対象として，「水中安全教育」に関する認識と態度の実態を明らかにすることを目的とした。具体的には，本論文の目的を達成するために，以下の3点を研究課題として設定した。

(1) 浙江省の大学生を対象として，「水中安全教育」に関する認識と態度の実態を明らかにする。

(2) 浙江省の大学の水泳教員を対象として，「水中安全教育」に関する認識と態度の実態を明らかにする。

(3) 研究課題(1)と研究課題(2)で明らかにした実態を踏まえ，浙江省の「水中安全教育」が中国全土に転用される際の課題を明らかにする。

研究の方法について，研究課題(1)及び研究課題(2)では，アンケート調査を採用した。大学生を対象とした調査について，夏（2012）が作成した小学生を対象とした「水中安全教育」に関する知識，技能，態度の3要素のうち，認知と行動に関する自己評価による質問項目を参考にした。そして，態度における3要素が一致しない際，感情が主な態度の決定要因とされているため（馮，2017），「水中安全教育」

に関する感情的な要素も含めて、検討することにした。そして教員を対象とした調査について、先述の大学生向けのアンケートを教員用に修正した。

本論文の構成は、図 1 の通りである。序章においては、本論文の研究背景や目的および研究方法などを述べる。第 1 章では、浙江省の大学生を対象とした「水中安全教育」に関する認識と態度の実態を事例的に明らかにする。第 2 章では、浙江省の大学の水泳教員を対象とした「水中安全教育」に関する認識と態度の実態を事例的に明らかにする。第 3 章では、第 1 章で明らかにした大学生の「水中安全教育」に関する認識と態度と、第 2 章で明らかにした大学の水泳教員の「水中安全教育」に関する認識と態度の実態を踏まえ、浙江省の「水中安全教育」が中国全土に転用される際の課題をまとめる。そして、終章では、本論文における成果と課題を整理する。

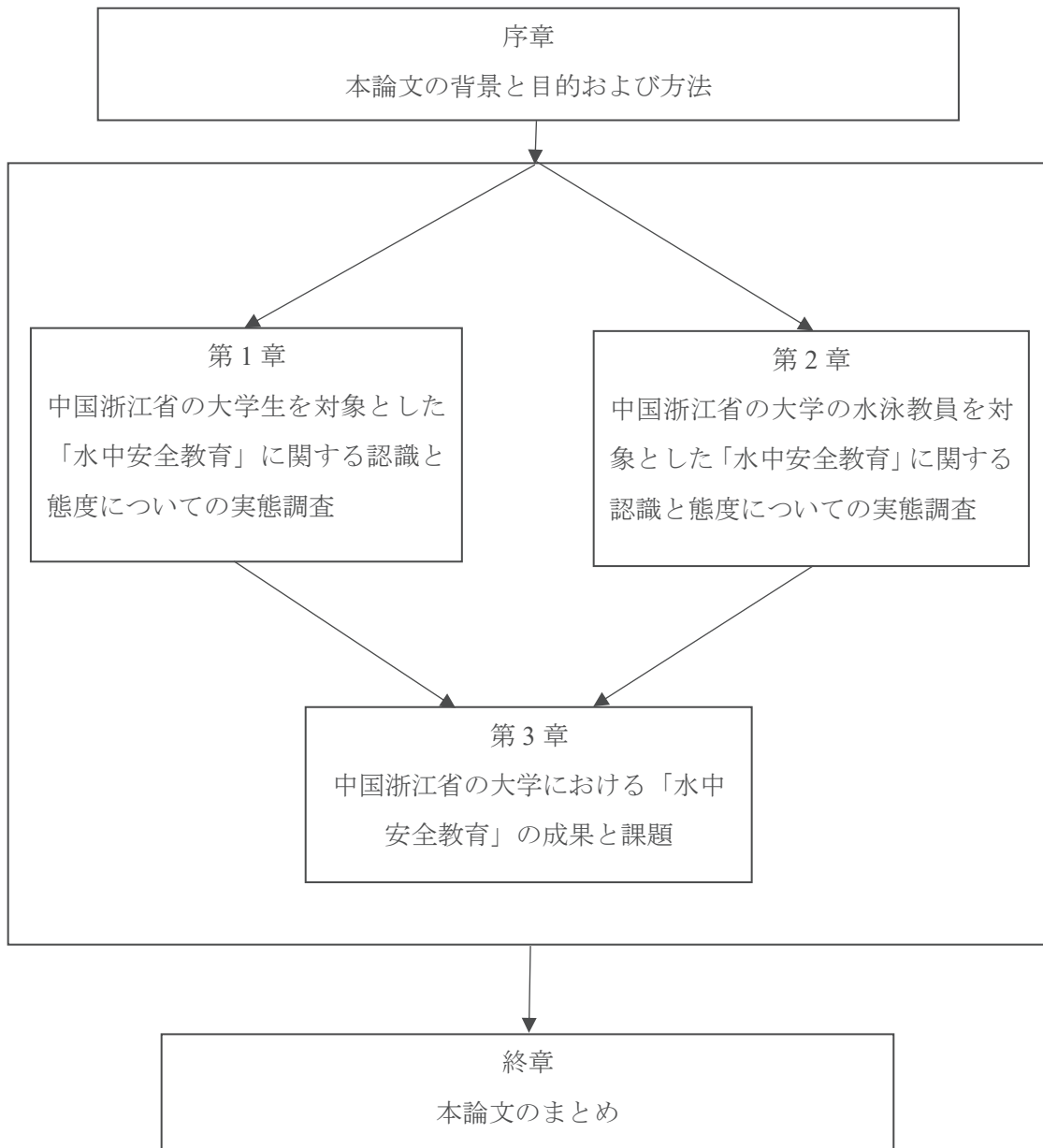


図1. 本論文の構成



## 第1章 中国浙江省の大学生を対象とした「水中安全教育」に関する認識と態度についての実態調査

第1章では、中国国内でもプール施設が充実している浙江省を事例に、浙江省の大学生を対象として、「水中安全教育」に関する認識と態度の実態を明らかにすることを目的とした。

研究の方法について、浙江省の5つの公立大学に在籍する大学1年生から4年生の合計420名を対象に、アンケート調査を実施した。調査方法及び調査内容について、夏(2012)の先行研究を参考に、3名の水泳教員の意見を聞き入れながら、「水中安全教育」に関する知識、技能、感情、認知、行動に着目した25項目の質問を設定した。アンケートの作成に協力した3名の水泳教員は浙江省の大学に勤めており、水泳が専門で、15年以上の教職経験年数を持つベテラン教員である。なお、3名の水泳教員はいずれも上級水泳指導者資格を持っており、浙江省のライフセービング協会の関係者である。アンケート調査は、Tencentのアンケートシステムを通して実施した。これらの項目については、いずれも中国語を用いて4件法で回答を求めた。調査時期は2022年7月20日から8月31日までであった。夏(2012)の先行研究では、調査対象者は小学生であったが、本研究では調査対象者を大学生へと変更した。そのため、「水中安全教育」に関する内容の項目に対し、最尤法・Promax回転による探索的因子分析を試みた。

「大学で『水中安全教育』を受けたことがある」と「大学で『水中安全教育』を受けたことがない」という回答が存在したため、在籍する大学における「水中安全教育」の有無によって、項目別の肯定的な回答の割合を示した(趙ら, 2020)。なお、肯定的な回答の割合は「そう思う」、「ややそう思う」の合計値で示した。そして、各質問項目の内的関連性を明らかにするため、 $\chi^2$ 検定を行った。

結果として、第1に、「『水中安全教育』に関する知識」と「『水中安全教育』に関する技能」について、浙江省の大学生を対象とした場合、「水中安全教育」有群から、「水中安全教育」の一定の成果が確認された。第2に、浙江省の大学生は「水中安全教育」の一環である着衣泳に課題を抱えている可能性が示唆され、着衣泳の実施に関連する泳法、水深、水温などの具体的な要素を質問項目に入れて検討する必要がある。第3に、浙江省の大学生は「水中安全教育」に対し、全体的に肯定的な態度を持っていた。しかし、「水中安全教育」有群の結果から、「『水中安全教育』に関する認知」および「遊泳時の決まり事を守る態度」に課題があると考えられた。授業実施方法の見直しや「水中安全教育」に関する知識の強化など、「水中安全教育」に関する態度を改善するための取り組みが必要である。

## 第2章 中国浙江省の大学の水泳教員を対象とした「水中安全教育」に関する認識と態度についての実態調査

第2章では、浙江省の大学の水泳教員を対象として、「水中安全教育」に関する認識と態度の実態を明らかにすることを目的とした。

研究の方法について、浙江省の公立大学に勤めている水泳教員62名から協力を得て、アンケート調査を実施した。調査方法及び調査内容について、夏(2012)の先行研究を参考に作成した第1章の大学生向けのアンケートを教員用に修正した。そして日本で積極的に取り入れられている「長く泳ぐこと」(文部科学省, 2017)は、救援の時間稼ぎに繋がり、水中で命を守ることに繋がると考えられるため、「長く泳ぐこと」についても調査することを試みた。アンケート内容について、第1章と同様の3名の水泳教

員による内容的妥当性の確認を行い、最終的に「水中安全教育」に関する知識、技能、感情、認知、行動に着目した 27 項目の質問を作成した。アンケート調査は、Tencent のアンケートシステムを通して実施した。これらの項目については、いずれも中国語を用いて 4 件法で回答を求めた。調査時期は 2023 年 10 月 6 日から 10 月 12 日までであった。そして、サンプル数が少ないため、各属性に対し、対応のない  $t$  検定と一元配置分散分析を用いて比較した。具体的には、カテゴリーごとに平均値を算出し、対象者の属性（性別、年代、教職経験年数）で比較分析を実施した。さらに、一元配置分散分析で有意差が認められた項目については、Tukey 法を用いて多重比較を行った。

結果として、第 1 に、全体の「水中安全教育」に関する態度の平均値が高値を示しているが、属性別の比較分析から、複数の項目の平均値が 3 点以下であった。第 2 に、水泳教員の「水中安全教育」に関する認識と態度について、性別による差異が認められなかった。第 3 に、20 代の水泳教員のデータから、教員養成段階において、「水中安全教育」に関する認識を育む教育内容が充実していると推測された。水泳教員の年代によって一部項目で有意差があったが、特に 30 代の水泳教員の「水中安全教育」に関する知識の水準が低いことが明らかになった。第 4 に、浙江省の大学において水泳教員は「水中安全教育」に関する知識と技能の指導において、教職経験年数による差が少なかった。そして、教職経験年数の違いにより、リスクへの判断が異なることが示唆された。

### 第 3 章 中国浙江省の大学における「水中安全教育」の成果と課題

第 3 章では、第 1 章と第 2 章で明らかにした浙江省の大学生および大学の水泳教員の「水中安全教育」に関する認識と態度の実態を踏まえ、浙江省の「水中安全教育」が中国全土に転用される際の課題についてまとめることを目的とした。

結果として、第 1 に、「水中安全教育」に関する知識と技能について、「水中安全教育」を受けた大学生へのアンケート結果から、「水中安全教育」の一定の成果が確認された。20 代の水泳教員のデータから、教員養成段階における「水中安全教育」に関する認識を育む教育内容が充実していると推測された。そして、30 代の水泳教員の教育経験や受けた研修の内容、教育方法などに焦点を当てて、「水中安全教育」に関する知識の水準が低い要因をより詳細に分析する必要があると考えられた。今後は、着衣泳などの教育内容の充実が期待される。第 2 に、浙江省の大学生は、「水中安全教育」に対し、全体的によい態度を示している一方で、「『水中安全教育』に関する認知」および「遊泳時の決まり事を守る態度」に課題があると考えられた。今後は、周（2020）が主張したように、自然環境に近い「水中安全教育」の授業内容の検討が必要であると考えられた。また、水泳教員の「水中安全教育」に関する態度において、課題も残されており、教員研修の強化、そして教職経験年数の違いを考慮したプログラムなどを通じて「水中安全教育」の質向上と水難事故防止への貢献が期待される。

以上の点を踏まえ、浙江省の「水中安全教育」の経験を中国全土に転用するには、以下の 3 点に留意する必要があると考えられた。

①浙江省における大学の水泳教員の「水中安全教育」に関する態度の実態から、教員研修の強化と教職経験年数の違いを考慮したプログラムの改善により、「水中安全教育」の質を向上させる必要性が示唆さ

れた。この点は、浙江省の「水中安全教育」の経験を他の省に転用する際にも、特に留意すべき重要なポイントであると考えられた。

②今後の課題として、大学生の教育経験や泳力の差異に関する調査が必要であると示唆された。したがって、他の省に浙江省の「水中安全教育」の経験を転用する際には、大学生の教育経験や泳力の差異を考慮し、地域の特性やニーズに合ったカリキュラムの開発が必要であると考えられた。

③今回の研究は量的な分析を中心として行われており、今後の課題として、他の実態の把握が必要であることが示唆された。したがって、他の省の実態把握や量的・質的データの収集・分析を通じて、各地域の課題を明確にし、適切な対策を講じることが重要であると考えられた。

## 終章 本論文のまとめ

本論文では、中国の大学における「水中安全教育」に関する先行研究を踏まえた上で、中国浙江省を事例に、浙江省の大学生および大学の水泳教員を対象として、「水中安全教育」に関する認識と態度の実態を明らかにすることを目的とした。本論文を通して、主に以下の成果が得られた。

①「水中安全教育」に関する知識と技能について、「水中安全教育」を受けた大学生へのアンケート結果から、「水中安全教育」の一定の成果が確認された。しかし、大学生の「『水中安全教育』に関する認知」および「遊泳時の決まり事を守る態度」に課題が残っているといえる。

②20代の水泳教員のデータから、教員養成段階における「水中安全教育」に関する認識を育む教育内容が充実していると推測された。一方、一部の水泳教員の「水中安全教育」に関する態度に課題がみられ、この態度を改善するような取り組みが必要である。

今後の展望として、まず大学生と水泳教員の「水中安全教育」に関する態度を改善するような取り組みが必要である。さらに、国の教育方針においても、国が「水中安全教育」の重要性を再認識し、その充実を図るべきである。

そして、中国における「水中安全教育」の発展に向けて、他の省や児童・生徒を対象とした実態の把握も必要であろう。また、大学生を対象とした場合でも児童・生徒時に着衣泳などの「水中安全教育」の授業を受けていたかどうかの差異や、泳力による回答の違いなども調査することが必要であると考えられる。水泳教員に関する調査で20代以外のデータが少ないという課題も挙げられ、水泳教員の「水中安全教育」に関する認識と態度のデータを増やすために、さらなる調査を行う必要がある。加えて、水泳教員にインタビュー調査を行うことで、より多様な知見が得られるであろう。また、中国における「水中安全教育」を実施する際に、大学生の泳力を考慮しつつ、授業内容に関する工夫も必要であろう。最後に、中国において諸外国で重要視されている着衣泳の授業を実施していない要因を明らかにする必要性が示された。

また、調査対象校の大学生の60%は浙江省の出身であることから（寧波大学、2023）、一部の大学生は大学入学時には既に高い泳力を持っている可能性がある。このことから、調査結果が偏る恐れがあると考えられた。そして、同じクラスで、大学生の泳力差が著しい場合は、小グループ指導の導入を検討することも重要であろう。現在、中国で実施されている「水中安全教育」はプールという比較的安全な場所で

行われているが、今後は水辺での「水中安全教育」を実施することで、より身を守るための技術や能力が得られるだろう。さらに、山中ら（2021）が水中運動技能を評価する際に、客観的評価と主観的評価が重要であると主張したように、これからは客観的評価を用いて多面的に「水中安全教育」の実態を調査する必要がある。

## 注

- 1) 水泳教員とは、水泳授業を担当している教員のことである。
- 2) 水辺活動とは「自然水域や人工的水域において、水際および水辺、水上および水中で行われるスポーツ・レクリエーション活動の総称」（梅田，1984，pp.3-4）と定義されている。

## 引用文献

- 荒木昭好，佐野裕（1993）はじめての着衣泳—服を着たまま泳ぐサバイバル・テクニック—. 山海堂：東京。
- 茅勇（2008）浙江省高校水上救生現状与発展対策研究. 浙江海洋学院学报, 25（4）：135-138.（中国語）
- 繆存鉄（2018）開展「静水」水上救生教学的探究与实践—以公安海警学院為例—. 淮南職業技術学院学报, 3（18）：119-121.（中国語）
- 陳敏（2014）福建省普通高校体育教師勝任特徵与工作績効關係研究—基于心理契約調節作用分析—. 福建師範大学，修士學位論文.（中国語）
- 陳奐（2023）寧波市体育中考改革对初中体育教学影響研究. 成都体育学院，修士學位論文.（中国語）
- 陳柯（2006）乘風破浪永向前—近代中国游泳運動回眸—. 游泳, 6：48-52.（中国語）
- 陳雄山（2007）影響浙江省普通高校游泳課程開設的相關因素研究. 浙江体育科学, 29（3）：54-56.（中国語）
- 張輝（2017a）大学生水域安全分層教育模式研究. 華中師範大学，博士学位論文.（中国語）
- 張振宇（2017b）中国游泳運動員培養「浙江現象」的研究. 華南理工大学，修士學位論文.（中国語）
- 張輝，王斌，羅時（2017）基于分層教学的大学生水域安全初級教育模式實驗. 体育学刊, 24（4）：88-93.（中国語）
- 張輝，王斌，羅時，于洪涛，方朝陽，卜姝（2016）湖北省大学生溺水高危行為調查研究. 湖北体育科技, 35（4）：300-303.（中国語）
- 張培廉（1994）海域遊憩活動安全防护手冊（上冊）. 中華民國海浪救生協會.（中国語）
- 張潤平（2018）高校游泳教学中对学生水上自救救助技能培養的方法与必要性分析. 教育教学論壇, 19：228-229.（中国語）
- 張騰，黃永良，傅紀良（2019）大学生水上安全教育課程体系的構建. 福建体育科技, 38（1）：51-54.（中国語）
- 趙英俊（2008）浙江省高校游泳運動發展策略研究. 寧波工程学院学报, 20（1）：87-92.（中国語）
- 趙月輝，齊藤一彦，山平芳美（2020）中国安徽省の中学生における健康知識・意識に関する実態調査. 保

- 健科教育研究, 5 : 41-49.
- 中華人民共和國教育部 (2011) 義務教育體育與健康課程標準. 北京師範大學出版社: 北京. (中国語)
- 中華人民共和國教育部 (2012) 教育部辦公廳關於預防學生溺水事故切實做好學生安全工作的通知. [http://www.moe.gov.cn/srcsite/A06/s3325/201205/t20120507\\_135382.html](http://www.moe.gov.cn/srcsite/A06/s3325/201205/t20120507_135382.html) (参照日2023年6月30日) (中国語)
- 代永翠, 丁蕊 (2021) 昆明市普通高校游泳公共體育課開展現狀. 文体用品与科技, 7 : 127-129. (中国語)
- 田小静, 羅明剛 (2018) 北京科技大学游泳生命安全教育現狀調查研究. 当代体育科技, 8 (10) : 207-208. (中国語)
- 田小静, 宋海燕 (2019) 如何提昇大学生水上自救救助技能—以北京科技大学為例—. 当代体育科技, 9 (3) : 224-226. (中国語)
- 土居陽治郎, 下永田修二 (2009) 学校プール建設の歴史と学校体育における水泳教育の変遷. 国際武道大學研究紀要, (25) : 31-41.
- フレッド・ラヌー: 江橋慎四郎訳 (1965) おぼれないための新しい水泳の技術. ベースボールマガジン社: 東京, 38-39.
- 馮曉明 (2017) 提昇普通大学生游泳運動技能方法探析. 山西能源學院學報, 30 (2) : 164-166. (中国語)
- 合屋十四秋 (2013) 水泳研究・教育事初め—swimming for allをめざして—. 愛知教育大學保健體育講座研究紀要, 38 : 41-53.
- 合屋十四秋, 寺本圭輔, 松井敦典, 下永田修二, 土井陽治郎, ケビンモラン (2011) 水上及び水中安全能力の実際とその認識. 愛知教育大學研究報告, 60 : 35-46.
- 吳維銘, 潘智敏 (2015) 淺談浙江省游泳運動興起的原因與意義. 当代体育科技, 5 (25) : 143-145. (中国語)
- Hair F. J., Black W., Babin B., Anderson R. E., Tatham R. L. (2006) *Multivariate Data Analysis (5th Edition)*. Prentice Hall.
- 稲垣良介, 岸俊行 (2015) 児童の水難事故に対するリスク認識と対策実行認識に関する実践的検討—着衣泳の事前・事後指導の学習効果に着目して—. 体育科教育学研究, 31 (1) : 17-28.
- 稲垣良介, 岸俊行 (2022) プールにおける着衣泳指導が中学生の水難事故防止に関する意識に与える影響—水遊び, ライフジャケットに対するイメージの変化より—. 教育医学, 67 (3) : 151-161.
- 稲垣友裕, 重松良祐 (2020) 中学校における安全確保を重視した着衣水泳指導のカリキュラム開発. 三重大学教育学部研究紀要, 71 : 431-439.
- 今野喜清, 新井郁男, 児島邦宏 (2003) 新版学校教育辞典. 教育出版: 東京.
- 易強 (2014) 生存教育理念下高校游泳教学的措施保障与安全策略—以重慶市高校為例—. 成都体育学院學報, 40 (9) : 88-90. (中国語)
- 人民網 (2022) 2022中国青少年防溺水大数据報告. <http://sz.people.com.cn/n2/2023/0724/c202846-40504919.html> (参照日2023年7月25日) (中国語)
- 徐惠, 梁超英, 符壮 (2015a) 普通高校大学生游泳課實施安全教育的存在問題與对策研究. 当代体育科技, 5 (32) : 115-116. (中国語)

- 徐惠, 梁超英, 符壮 (2015b) 普通高校大学生游泳课实施安全教育的研究. 当代体育科技, 5 (4) : 80-81. (中国語)
- Keith McElroy G. (1985) SWIMMING & LIFE SAVING, The Royal Life Saving Society-Australia: Clayton, pp.50-84.
- 児玉裕巳, 石隈利紀 (2015) 中学・高校生の学習に対する態度についての研究—認知・行動・情緒の3側面からの検討—. 教育心理学研究, 63 (3) : 199-216.
- 高芬 (2013) 北京市普通高校体育教師繼續教育現狀研究—以北京市部分普通高校為例—. 首都体育学院, 修士學位論文. (中国語)
- 韓保衛 (2022) 安全教育視角下高校游泳課建設研究. 黄河水利職業技術學院學報, 34 (1) : 94-97. (中国語)
- 紀彦屹, 王興芝 (2021) 生命教育視域下嶺南高校水域安全教育特色課程構建分析. 当代体育科技, 11 (2) : 129-132. (中国語)
- 警察庁生活安全局生活安全企画課 (2022) 令和3年における水難の概況. [https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/chiiki/r03suinan\\_gaikyou.pdf](https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/chiiki/r03suinan_gaikyou.pdf) (参照日2022年8月31日)
- 夏文 (2012) 小学生水域安全教育的理論与実証研究. 華中師範大學, 博士學位論文. (中国語)
- 小塩真司 (2018) SPSSとAmosによる心理・調査データ分析—因子分析・共分散構造分析まで—. 東京図書: 東京.
- Laakso, B. W., Horneman, E. K., Grimstad, R., Stallman, R. K. (2018) Decrement in swimming performance with added burden of outer clothing. The Open Sports Sciences Journal, 11(1) : 60-68.
- 目黒拓也, 金沢翔一, 豊田郁豪, 森山進一郎 (2021) 大学生への着衣泳授業に関する検討. 東京学芸大学紀要, 73 : 285-290.
- 松井敦典, 南隆尚, 野村照夫 (2016) 日本の水泳教育における着衣泳の普及と取り扱いに関する論考. 水泳水中運動科学, 19 (1) : 8-15.
- 文部科学省 (1993) 水泳指導の手引き (改訂版), 東洋館出版社: 東京.
- 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領 (平成29年告示). [https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt\\_kyoiku02-100002604\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf) (参照日2022年9月5日)
- 寧波大學 (2023) 在寧大請放心. <https://news.nbu.edu.cn/info/1003/47357.htm> (参照日2024年1月12日) (中国語)
- 中嶋悠貴, 森勇示 (2016) 我が国の体育科教育における「わかる」に関する論考の系譜. 愛知教育大学保健体育講座研究紀要, 41 : 19-30.
- 王燦燦 (2020) 高校体育教師教學實踐能力現狀調查与提昇路径研究. 蘇州大學, 修士論文. (中国語)
- 王曉龍 (2020) 对浙江省水上救生協會防溺水水教育進校園工作的分析与对策研究. 北京体育大學, 修士論文. (中国語)
- 王郁平 (2012) 武漢市小学生水域安全教育現狀調查与分析. 華中師範大學, 修士論文. (中国語)
- 頼志傑, 黃飛, 袁海溪 (2019) 大学生水域安全教育開展的SWOT分析—以広州大學城為例—. 当代体育科

- 技, 9 (16) : 153-156. (中国語)
- 李紅兵, 李莉 (2006) 水中遇險時怎樣自救与求生. 遊泳, 4 : 48-49. (中国語)
- 李慧玲 (2008) 構建学校遊泳課安全保障体系的相關問題研究. 浙江体育科学, 30 (6) : 93-96. (中国語)
- 李建設, 王章明, 顧耀東 (2017) 中国遊泳「浙江現象」及形成機製探究. 体育科学, 37 (6) : 35-40. (中国語)
- 李建設, 王章明, 李蜀東, 關志遜, 顧耀東 (2019) 中国遊泳「浙江經驗」及美国遊泳長盛不衰之探究. 体育科学, 39 (1) : 27-34. (中国語)
- 李彦瑩 (2019) 關於高校遊泳安全問題探討. 当代体育科技, 9 (34) : 171-172. (中国語)
- 劉萃 (2020) 民国時期遊泳運動的推广研究. 鄭州大学, 修士論文. (中国語)
- 魯茜, 董煜, 袁銳, 劉正 (2017) 關於高校遊泳課安全問題的研究. 当代体育科技, 7 (27) : 117-119. (中国語)
- Sea Tow Foundation (2018) YOUR CLOTHES CAN SAVE YOUR LIFE. <https://www.boatingsafety.com/blogpost/1828549/340119/Your-Clothes-Can-Save-Your-Life?hhSearchTerms=%22life%22&terms=> (参照日2024年1月10日)
- Stallman, R. K., Junge, M., Blixt, T. (2008) The teaching of swimming based on a model derived from the causes of drowning. *International Journal of Aquatic Research and Education*, 2 (4) : 372-382.
- 蔡琦皎 (2022) 浙江省高校遊泳教練員執教能力評價指標体系構建研究. 杭州師範大学, 修士學位論文. (中国語)
- 施浩然 (2021) 浙江省本科高校遊泳運動開展現狀与發展策略研究. 貴州師範大学, 修士學位論文. (中国語)
- 肖飛, 呂占広, 趙品生 (2021) 基于水中生存能力提高的遊泳教学內容改革. 当代体育科技, 11 (15) : 1-3. (中国語)
- 櫻井みや子, 和田裕一, 關本英太郎 (2011) 小学校教員のICT活用に対する態度と活用実態. *コンピュータ&エデュケーション*, 31 : 82-87.
- 浙江省教育厅 (2003) 浙江省学生人人学会遊泳. [https://sports.sohu.com/a/715819673\\_121767385](https://sports.sohu.com/a/715819673_121767385) (参照日2023年11月15日) (中国語)
- 周鵬程 (2020) 着衣泳を取り入れた水泳教育の效果に関する実験的検討—中国・浙江省の大学を事例として—. 広島大学修士論文.
- 党波 (2020) 高校遊泳教学模式的現狀与創新發展探究. 当代体育科技, 10 (23) : 73-87. (中国語)
- 党瞳 (2018) 探討高校遊泳選修課中開展救生技能教学的必要性及教学对策. 体育世界 (學術), 12 : 152-154. (中国語)
- 対馬栄輝 (2008) SPSSで学ぶ医療系多変量データ分析. 東京図書 : 東京.
- 鳥海崇 (2019) 体育実技「水泳」履修学生の水中安全能力の調査—泳力テストと質問紙による泳力の自己評価との関係を中心に—. 体育研究所紀要 (慶應義塾大学体育研究所), 58 (1) : 19-32.
- 鉄口宗弘, 高木信良, 三村寛一 (2016) 通学用ランドセルと着衣泳について. 大阪教育大学紀要, 65 (1) :

99-106.

玉腰和典（2017）体育科教育における認識対象の構造的特徴に関する考察—出原泰明の実践を分析対象として—. 日本教科教育学会誌, 39（4）：1-11.

梅田利兵衛（1984）野外活動叢書4—水辺野外活動第1版第1刷. ベースボールマガジン社：東京.

于洪涛（2016）大学生水域安全技能等級標準研製. 華中師範大学, 修士学位論文. （中国語）

于楠（2017）簡析高校遊泳教学中的安全隱患及对策. 運動, 15：95-96. （中国語）

山中裕太, 村瀬瑠美, 本間三和子, 高木英樹（2022）水中での自己保全能力を高める大学水泳教育の設計. 大学体育スポーツ学研究, 19：73-83.

山中裕太, 村瀬瑠美, 高木英樹（2021）水中での自己保全能力を高める大学水泳教育の指導理論の解明. 体育学研究, 66：657-675.

楊振斌, 李焰（2015）大学生非正常死亡現象的分析. 心理与行為研究, 13（5）：698-701. （中国語）